

概要報告

実施期日	8月1日(金)
部会名	中学校 総則部会

テーマ 『学習指導要領の内容を踏まえた教育課程の編成と教育活動の工夫・改善』

提案概要

本校では、他の地域の中学生より読書をする習慣がない生徒が多く、1ヶ月に1冊も本を読まない生徒が4割いるということがわかった。また、基礎学力の習得を個別に支援する必要がある生徒が多く、生徒のいわゆる学力の二極化が見られた。これは、以前から本校の課題でもある。これらの課題を解決するために、教員が授業の質を少しずつ高める授業改善を推進していくこと、学校での読書指導を充実すること、基礎学力の習得に個別の支援が必要な生徒に具体的な手立てを講じ、学習習慣の確立に向かわせることなどの教育活動の工夫・改善に取り組んだ。

教育活動の改善の核として、学び合いを通して学習意欲を高め、学びを深める指導の工夫に取り組んできた。校内研究推進委員会を軸に、学年ごとの公開授業、授業公開並びに研究協議会を通しての授業改善を推進している。また、読書の課題については、読書習慣を身につけさせ、豊かな感性と考える力を育むことを目的として、今年度より朝の読書活動を始めた。さらに、基礎学力の定着や自分を表現すること、やればできるという自信を与えることなどをねらいとして、地域人材を活用して、夏休み10日間のサマースクールや定期テスト前の学習会、ゲストティーチャーによる教科の授業などを行っている。また、学校支援ボランティアの協力を得ながら、個別支援で生徒を励まし、学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るための教育活動の工夫・改善に取り組んでいる。

教育活動の工夫・改善に取り組むことで、進級するに従い前向きに授業を受ける生徒が増えてきている。以前よりも学校の雰囲気落ち着いてきて学校が少しずつ変わりつつある。具体的には、授業の中で学び合いの時間を設定することで、教師が説明をしているときに、授業に参加できなかった生徒がグループ内で学び始める姿が見られるようになった。読書活動については、生徒は落ち着いた静かな時間から一日をスタートできるようになった。また、授業の中だけでは十分な個別支援が難しい生徒に声をかけ、地域の方の協力を得ながら行う学習支援は、生徒に「分かった」「できた」という思いを抱かせ、学習意欲の向上や学習習慣の確立につながっていると実感している。

研究協議概要

※5～6人ずつの9つのグループで協議の時間を2回もった。どちらも話が絶えることなく活発な意見交換が行われていた。

<グループ協議1> 協議の柱：提案に対して気になったこと、質問してみたいこと等

[提案者が各グループを回り、模造紙に記載されている質問事項などに目を通し、各グループの質問を受けて答えた。]

○地域ボランティアはどのようにして集めているのか

→平成23年度から開始された、市教委から委嘱された地域連携コーディネーターが窓口となって、募集や学校の要望を地域へ伝えて集めてくれる。集められた方々や学校の職員で、4月にボランティア会議が開かれ年間の計画を立て、様々な行事に必要な人数を決めて決定していく。(ボランティアは80～100人)

○学校側の組織としてはどのようなになっているのか

→基本は教頭が地域連携の窓口となっている。しかしそれぞれの行事は、担当者が中心となって地域連携コーディネーターとつながっている。

○朝読書の時間はどのようにしているのか

→朝8時40分までの時間で読書と朝のHRを行っている。ほとんどの生徒が8時25分には登校しており、職員も教室へ向かうようにしている。朝の打ち合わせは担当が作る日報で行っている。

○サマースクールにおける教師の負担について

→サマースクールはボランティアだけでなく、教師も一緒に行っている。部活動などもあり、すべての職員が常に参加できるわけではない。教師側の負担感はあるが、それ以上に得るものは大きい。

生徒は9時から10時45分の活動である。その後ボランティアと教師の反省会を11時30分頃まで行う。

○参加する生徒はどのように決めているか

→教師側から普段の活動状況を見ながら声かけをする。強制ではないが比較的積極的に参加する生徒が多い。

○教材の用意はどのようにしているか

→国語・数学・英語などのプリント類を学校側が用意する。(100枚近くある)それをボランティアと教師と一緒に扱っている。

<グループ協議2> 協議の柱：教育課程編成上の問題点・工夫 等

[各グループの模造紙に記載されたものより主なものを転記]

- ・若手教師への指導体制 コミュニケーションの
難しさ
- ・朝の連絡が伝えにくい
- ・日報を教務が出しているが、頼られてしまう
- ・教師間の連絡手段が問題→情報の共有化が大切
- ・総括教諭が学年を離れて横断的に教員間の連絡
を作るよう意識をする
- ・授業時数の確保
- ・教育相談の時間の確保
- ・3年特別時間割の廃止
- ・家庭訪問を実施しないことによる問題点
- ・持ち時間数のアンバランス
- ・成績処理の時間の確保
- ・テスト結果連絡票、各校バラバラ
- ・評価評定のあり方
- ・修学旅行の行き先 農業体験、漁業体験
- ・定期試験の日数
- ・清掃は毎日?
- ・給食の導入 牛乳注文する割合 牛乳パック持
ち帰り

まとめ概要

- ・総則では法で定められた枠組みの中で、どれだけのことを創意工夫できるかということが本当のポイントではないか。本日の発表は、学習面での生徒一人ひとりの力を底上げしていくとともに、子どもの意欲を底上げしていくという面もあったと感じた。これをどういった形で教育課程に組み込んでいけるかというところの話ができるとういと感じた。
- ・学校で教育課程を編成するということは、学校の長たる校長が責任者となって編成するということである。これは権限と責任の所在を示したものであり、学校は組織体であるので教育課程の編成作業は当然ながら全教職員の協力の下に行われなければならない。総合的な学習の時間をはじめとして創意工夫を活かした教育課程を各学校で編成する事が求められており、学級や学年の枠を越えて、教師同士が連携協力することがますます重要となっている。また、校長は学校全体の責任者として指導性を発揮し、家庭や地域社会と連携を図りつつ、学校として統一のあるしかも一貫性を持った教育課程の編成を行うように努める必要がある。(指導要領より)
- ・本日の発表は、自校の現状をしっかりと分析し、そして見えてきた課題に対して職員全員の総意の下に取り組んでいる。授業改善を核としているが、その周りに朝読書があり校内環境整備があり、地域の方々のゲストティーチャー、サマースクールがあり、授業改善とそれらの活動が相乗効果となって、先生たちも地域の方々も子どもたちと密接に関わることで少しずつ長い時間をかけて子どもたちに成果を生んでいる、ということが感じられた。
- ・授業改善…①生きる力を育成すること ②知識技能の習得と思考力判断力表現力等の育成のバランスを重視すること ③道徳教育・体育などの充実により豊かな心や健やかな体を育成すること、という大きな柱を目指しつつ、指導計画の作成等に当たる。またそのために配慮すべき事項…①生徒の言語活動の充実 ②見通しを立てたり振り返ったりする学習活動の重視 ③障害のある生徒の指導(ユニバーサルデザイン)に意識をもつ ④情報教育の充実 ⑤部活動の意義と留意点、等であるが、教育課程との関連が図られるように配慮する。
- ・中学校は時間数が足りないという声をよく聞く。非常に厳しい状況の中ではあると思うが、年間を通して配慮すべき事項を計画的に盛り込んで実践することが、子どもたちに力をつける教育課程の編成につながっていくのではないかな。
- ・「優しさ貯金」がいっぱいある子どもは、毎日嫌なことがあっても耐える事ができる。貯金が底をつくと爆発してしまう。教師も同じである。お互いに「優しさ貯金」をたくさん持ち、みなさんで温かい関係を作っていきたい。
- ・様々な教育活動を工夫していく上で、地域の支援は欠かせない。地域と教師が一つの目標に向かって一緒になって同じ汗を流すことによって目指す子どもの姿が見られるようになる。